

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 7 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	22.7	106.1 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.6 m ³ /h	35.6	5.66 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	34.3	0.26 kPa g	A系： 0.14 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.13 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/5/1 5月分の原子炉の冷却に必要な注水量について、1号機 2.8 m³/h、2号機 3.8 m³/h、3号機 3.7 m³/hと定め、運用を開始。

[1号機]・H25/5/4 15:15 注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.3 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。

[3号機]・H25/5/4 15:15 注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.4 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.5
2号機	循環冷却システム	運転中	18.1
3号機	循環冷却システム	運転中	16.0
4号機	循環冷却システム	運転中	27

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	1号機廃棄物処理建屋	5/4 9:03~21:10 移送実施
			5/5 5:45~9:25 移送実施
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	4/27 9:34~5/3 9:20 移送実施
			5/7 9:50~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	4/24 17:08~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/7 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/5/4 3号機原子炉建屋上部ガレキ撤去工事で原子炉建屋上部オペフロ北側のガレキ撤去を行っていたところ、撤去ガレキを原子炉建屋西側に配置した高線量ガレキ運搬用トラック(無線式)に積載する際に、約540mSv/hの高線量率ガレキがあることを発見。そのため、5/4 13:45、当該高線量ガレキ運搬用トラック周辺を立入制限。当該ガレキは、3号機原子炉建屋南側にある高線量ガレキ仮置場へ移動。今後、5日程度の間、従来から行っている高線量率ガレキ運搬作業と同様に、高線量ガレキコンテナ運搬用トラック(無線式)にて、発電所免震重要棟北側にある固体廃棄物貯蔵庫に運搬する予定であり、運搬作業の際は放射線被ばくに注意して実施する予定。なお、作業員への影響ならびに今後のガレキ撤去作業への影響はない。また、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。

・H25/5/8 1号機サブプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサブプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サブプレッションチェンバ内への窒素ガス封入(予定注入量約6~7m³/h)を再開予定。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

4/23 12:24 ~ 地下貯水槽 No.1からH2エリアタンクへの汚染水の移送を開始。4/26 の移送をもって、汚染水の移送を一時中断。地下貯水槽 No.1からろ過水タンク No.1への汚染水の移送が終了後、4/29 9:23、地下貯水槽 No.1からH2エリアタンクへの汚染水の移送を再開。5/6 12:19、移送を終了。なお、4/23 から4/26、4/29 から5/6 までの移送量は約2,250m³。

< 拡散防止対策 >

5/3~7 地下貯水槽 .1~3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。

< サンプルング実績 >

5/2~6 地下貯水槽 No.1~7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1~4,6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析の結果、地下貯水槽 No.1~7のドレン孔水、地下貯水槽 No.1~4,6の漏えい検知孔水および地下貯水槽観測孔(地下貯水槽 No.1~3,6周辺)については前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。なお、5/6は海側観測孔(8箇所)についてもサンプルングを実施。分析結果については、前回の分析結果と比較して大きな変動はない。

以上